



水球用ボールを手に笑顔の奥田さん

輝いています

全国JOCジュニアオリンピックカップ 出場

ひと

おくだ うらら
奥田 麗さん

水球の全国一を目指して

水

しぶきをあげながら相手陣内へと泳ぎ、勢いよくボールを投げ放ちゴールネットを揺らす。1年生ながら全国屈指の名門藤村女子高等学校水球部のレギュラーとして試合に出場する奥田麗さん(15歳・中央7丁目)は、攻撃的なポジションで5試合12得点の活躍をし、チームはみごと6月の東京都のリーグ戦で優勝を果たしました。水球とは、7人で構成された2チームが、水深2メートル以上のプールに作られたコート内で相手ゴールにボールを入れ合い得点を競うスポーツ。生後9か月頃からベビースイミングで水に親しみ、以来水泳を続けてきた奥田さんは、小

学4年生の頃に兄が出場する水球の試合を観戦し、仲間と協力する団体競技の魅力に目覚め、水球を始めました。中学時代には、第一中学校水泳部で泳力に磨きをかけながら、川口市内のクラブチーム「川口水球」の一員として活躍。全国大会で3年連続ベスト8以上の成績を収め、昨年度の蕨市体育賞では優秀選手として表彰されました。

「大好きで続けてきた水球。満足いくまで存分にやっていたら」。母の後押しを受けて現在の高校へ進学し、昨年度全国で準優勝の水球部に入部。授業前の朝練習では3キロ泳ぎ、土日には格上の大学女子水球部と練習試合を行うなど、タフな毎日を過ごす奥田さんですが、「目標は全国優勝」と語る表情は明るく、前を見据えています。最近はその完成度を高めるべく、さまざまな状況を想定した連携プレーの練習に励む日々。「僅差の相手にいかに勝ち切るか、常に考えています」とリアリストな一面をのぞかせます。「水球は迫力があり観戦にも向いた競技。より多くの人に興味を持ってほしいです」と奥田さん。全国大会は今月下旬です。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蕨にあり

— No.27 —



現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ きょうさい
河鍋 暁斎
天保2年(1831)
～明治22年(1889)

本作品は暁斎の弟子で英国人建築家ジョサイア・コンドル(1852～1920)の旧蔵品です。コンドルは鹿鳴館の設計者として有名ですが、暁斎に日本画も学びました。暁斎は本作品をコンドルの前で描き、さまざまな画法を示したことがコンドルの著作から分かっています。眼光鋭い白鷺がどっしりと構える一方、白鷺の足元の岩にはおびえた様子の猿が頭を押さえて身をかがめています。動物たちが写実的に描かれているのに、墨絵で力強く表現されていて、その対比も見応えのある作品です。

河鍋暁斎記念美術館 期間＝8月25日(土)まで
「暁斎一門が描く イキイキ生き物たち」展
同時開催「第32回かえる」展

開館＝午前10時～午後4時
休館＝木曜日・毎月26日～末日
ところ＝南町4-36-4
入館料＝一般600円
中学生～大学生500円
小学生以下300円
(20人以上の団体は要予約)
詳細＝同館(☎441・9780)



展示会の詳しい内容は美術館のホームページをご参照ください



暁斎筆「白鷺に猿図」
絹本・墨画彩色 軸装
明治17年(1884)

本作品は現在の展覧会で御覧いただけます